

第2回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 平成23年6月21日（火） 18:30～20:15
2. 会 場 エコーセンター2000 3階 視聴覚室
3. 出席者 田中座長、松井副座長、和田委員、清水委員、菅野委員、尾崎委員、河西委員、小林委員、渡辺委員、深川委員、我妻委員、小村委員、加藤委員、河原委員
4. 事務局 網走市：川田企画総務部長、嶋田企画総務部参事、日野主事
大空町：山本総務課参事、福原主査

開 会

【事務局】第2回目の懇談会を開催いたします。本日の出席者は14名でございます。お配りしております資料について、最初にご確認させていただきます。本日使用する資料ですが、共生ビジョン第1章から第4章までの部分と、第5章の事業一覧、それと、先週お送りしております資料1の第1回懇談会における各委員の意見等要旨及び対応についての3種類でございます。不足している資料、ございませんでしょうか。資料1につきましては前回、委員の皆さんからいただきました意見に対しまして、今時点で事務局の対応等が決まっているものについてのみ、対応の方に記載させていただいております。

また、先週お送りいたしました6月14日現在という表紙の共生ビジョンですが、目次等含め第1章から第3章まで、第1回のご意見をいただいた中での修正箇所を青字で表示してお送りしておりました。ところがお送りした後で、第4章以降の事業費関係に誤りがございまして、今回6月21日現在ということで、第1章から第3章までは先週送ったものと変わっていないのですが、第4章以降、特に事業費の部分が変更になりましたので、今回一式再度お配りしております。事業費の部分については青字で修正箇所を確認していただけるようにしておりますけれども、1件だけ事業が統合、拡充されているものがございます。第5章の横書きの表であります。こちらの38ページにあります「ものづくりサポート事業」という事業名で、これが他の事業と統合され事業費の拡充ということで、この部分の事業名が変わっております。他の部分については事業費のみの変更になっております。

今回お配りしております共生ビジョンですが、以前は「素案」という形で表紙に表示してお配りしておりましたが、素案というのはほとんど出来上がる前の状態のものではないのかというご指摘もありまして、今回お配りしております資料は「たたき台」ということで、前回のご説明の中でもそういったご説明をさせていただきましたが、たたき台という形で今回整理させていただきますので、よろしくお願ひいたしま

す。それでは、これからの議事の進行につきましては、田中座長にお願いいたします。

議 事

【座 長】皆さん今晚は。お忙しい中ご参集いただきまして、ありがとうございます。今日も限られた時間ですが、効率の良い、成果の上がる議論をしていきたいと思えますので、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

先ほど資料の説明がありましたが、我々が先回、第1回の議論で皆さんのご意見等々伺ったわけですが、それが資料1のところで整理されています。整理の仕方の関係で、若干趣旨が違っているというところもあろうかと思いますが、そういうことがありましたら、また改めてご意見として伺いたいと思います。それぞれ医療分野、広域観光、環境、福祉、産業振興、その他ということで整理されています。

今日の進め方ですが、一応素案というように前回はなっておりましたけれども、我々皆さんと議論していくために、何もなしとなかなか議論も進まないと思えますので、たたき台ということで新たに今日配付された資料を基に進めていきたいと思えます。もう一つ、予め申し上げておきたいと思うのですが、たたき台ということで、これで決めるということではございませんので、是非、皆さんのご意見を願いたいと思えます。

まず、目次のところで第1章 定住自立圏共生ビジョンの策定にあたってというところですが、ここは概要ということで、まず、定住自立圏の概要が書かれております。これは郵送されております「素案」という形になっておりましたけれども、それとほとんど、全く変わっていないということで、既にご覧になっていることと思えます。このあたりは、私としてはさほど議論する部分はあまりないように思っておりますが、何か第1章のところで、「この点は少し修正を加えて欲しいです」とかありましたら、各委員の皆さん方の方からご発言をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

これまでの取組、名称、構成市町、次にこの定住自立圏共生ビジョンの目的ということで、これは法律に基づいたといえますか、総務次官通知の規定にあつて、この形成協定に基づいて推進する取組についてまとめられている具体的な内容を記載しているという趣旨のことが書かれております。

期間ですが、これは前にもご案内がありましたように、23年度から27年度までの5年間ということで、毎年度見直しを行っていくということでもあります。

第1章のところはいかがでしょうか。特にこういう文言は必要なんじゃないかとか、よろしいですか。それでは第2章に参ります。

第2章 定住自立圏に係る圏域の現況と現状、これも要するに人口から始まりま

して各産業等々の概況、現況をまとめているということで、第2章の第1節にあたる部分は圏域の概況ということで、簡単な歴史、例えば旧女満別村は大正10年に旧網走町から分村している。旧東藻琴村は昭和22年の網走市制施行と同時に分村したというような簡単な歴史、町の経緯がまとめられているということでもあります。

その下の段の所は、いわゆる様々な分野でこれまでも連携、若しくは協力をしながら進めてきた部分もありますよという、消防組合ですとかそういうことでもあります。それから1市1町、網走市と大空町の概況も併せて書かれているというところがあります。特にここが問題だとか、間違えているというところがあれば、ご確認いただきまして。

例えば第1節のところで、生活排水やし尿の共同処理、それから地区の消防組合は（広域で）やってきたと。広域のごみ処理とかはないということですね。このあたりはよろしゅうございますか。

それから次に第2節にあたるところで、圏域の現状ということで人口の推移、これは確実をなすために国立社会保障・人口問題研究所の統計を用いております。人口の推移、世帯数の推移、年少人口の推移、このあたりはいわゆる高齢化率も含まれていると。生産年齢人口、労働力人口、産業就業人口等々が書かれております。このあたりいかがでしょうか。

ちょっと気になりましたのは、5ページの産業就業別人口の推移のところで、両市町とも第3次産業であるサービス云々、これが高い割合を占めていると。大空町は第一次産業が高い割合を占めている。この辺りが二元的な表現になっている気がしますので、もう少し上手に整理をする必要があると私は感じました。

工業の推移、商業の推移、それから前回の懇談会で農業が入っていないということで、9ページに農業を補足した資料を入れました。

いかがでしょうか。数字の誤りですとか、そういうところは完成させるときに確認することになろうと思います。

農業の部分についていかがですか。

【委員】この前発言させていただいたのは、この地域が日本の中でも、かなり食糧生産基地として大きな地域だということが見えれば良いなと思っておりましたが、残念ながらその資料がないということで、このような形になるんですね。

【座長】そうなんです。本当はそういう形で載せられたら一番良いのですが。このあたりは資料が出ていない。

【事務局】両市町を比べて推計がとれるようなデータが、農林業センサスという資料しかなかったのですが、そちらの資料では生産額とかそういったものが調査年度でまちまちでして、特に生産額は、肝心のジャガイモが調査から対象外だったりといったことがございまして、載せると逆に誤解を生むのではということで、その部分は省略

させていただきました。

【委員】私も、統計事務所（のホームページ）に出ているのではないかと思いましたが、最近は出していませんね。昔は出していたんですね。

【座長】私もあの後、調べてみたのですが、無いですね。

【委員】出すのを止めたんですね。

【座長】経産省とか農水省にもちょっと問い合わせてみましたが、出てないんですね。それで、大体こういったような形で農業の推移ぐらいで表現することになるかと思えます。

他の委員の方でここまで、第2章までいかがでしょうか。

一応概況ということですので、間違っていなければ良いという言い方は言い過ぎかもしれませんが、勿論、概況、現況を踏まえた上で今後というのがありますので、そういう意味では重要なデータになります。

【委員】産業の関係で、工業と商業と漁業に言えるのですが、何年と何年を比較して何パーセント増えているとか、減っているとかいうことに、意味があまりあるのかという気がちょっとしました。

【座長】一応これは全体的に、ここにも書かれていますように、推移という表現がなされているものですから、過去5年間というか、将来も含めてトータルで5年間ぐらいを見通してという意味合いで、比較の数字が出ているということです。

【委員】特に私たち漁業は変動が大きいので、点と点を比べてもあまり意味がないという感じはいたします。

【座長】ある意味では、そこら辺りは皆さんそれぞれ各分野のご専門、スペシャリストというか実際に従事されている方々ばかりですから、そこらあたりをピックアップしておいて次で連携の部分で、だからこの部分をこういった連携事業、協力事業が必要になってくるのだという形でご提言していただければと思っております。

恐らく第3章、第4章は非常に少ないのですが、ここが一番時間をかけなければいけないところだろうと考えております。特に第4章の部分については、具体的に事業の概要が出ております。23年度の分につきましては、既に両議会の承認も得て、一応予算も決定ということになっていると。24年は見込みという数字になります。従って、ひょっとしたら24年はもっとそこらあたりを厚くしなければいけないのかとか、そういったご意見も出てくるかと思えますけれど。

第2章まで一応現況ということで、第3章が圏域の将来像ということで、将来像はこれくらいの分量でいいのではと私は思っておりますが、いかがでしょうか。圏域の将来像ということで、全般的な人口の減少、これは日本全体の少子高齢化が進んでいるというのは、今現在進んでいる一般論として。しかしながら今後は更に人口減少が

進んでいくと。これはさっきの人口の概況においてもそういうことが推論されることで、そのために両自治体が効率的な生活、若しくは公共サービス、これを効率的に充足するためにどうしなければならないのかというようなことであります。従って、将来像の部分については、もう少し皆さんのご意見を頂いた方がいいんじゃないかと私は思っておりますが、いかがでしょうか。

【委員】 前回は申しましたけども、基盤になる「まんまを食う」ところ、飯を食う「食い扶持」ですね。食い扶持があつて、結果的に生活があるというこの目線という（のが大事だと）。

ちょっとお尋ねしたいのですが、私前回勘違いをしていたかもしれませんが、事業が先にあつてその事業に肉付けをしていっているといえますか、議会で調印するのに決まったものが、メニューが並んでいて、それに肉付けしているという認識で、まずよろしいのでしょうか。

【座長】 基本的にはそういう方向です。

【委員】 そういうことですね。そういう認識をしますと、前回、私失礼いたしました。余計なことをいっぱい言ったかもしれません。今後見直していくということもあるかもしれませんが、将来像の中に「まんまを食える」ようなことが大事だよねということが、一言あつても良いかという気がいたします。第一次産業もあるし、付随していろいろな産業もあるし、そんな気がいたしました。

ちょっと話がずれますけれども、これを読んでいてずっと違和感があつたんですね。それは何かというと、現状があつて対応があるんですね、課題が見えてこないと感じました。現状があつて事業がもう既に決まっているということでしょうけれども、一つ一つの事業にはある課題があつて、それに対応するために、こういう事業をやるよというのがあると思います。それを掘り起こしてここに当てはめていくといいのかなと思います。それは現状のところ課題を書くのか、それともそれぞれの具体的な取り組みのところ課題を書くのか、とにかく課題を書かれた方が、皆さん分かりやすいかという気がいたしました。

【座長】 分かりました。ありがとうございます。

当然現状を分析して踏まえた上で分析をしていけば、当然必然的にそこに問題、課題が出てくるのが当然のことで、それを踏まえた上での事業とか仕事ということになって、その必然性がこのつくりでは見えにくいというようなご意見だと思います。本当は現況のところ、人口がこんなに少なくなっていますと。生産人口が少なくなっているからこういう課題があるのだということを明示してやっていくと。だったら人口対策についてはこうした方がいいとかという必然性が共に出てくるということになるかと思いますがね。そのあたりは現況のところ付け加えても別に構わないわけですから、一応それを現況のところに取りまとめのような形で付けるというこ

とでいかがでしょうかね。

【委員】あと、インターネットで他所のやつを見てたのですが、具体的な取組内容のところに課題が書いてあります。「この課題があるからこういう事業をやります」というようなやり方も分かりやすいという気がいたしました。

【座長】現況を現況だけで済ますのではなくして、簡単な総括をすると。それで新たにそこから出てこない課題にしても、今後は事業のところに課題を整理して表現をすれば、という必要もあるのではないかと。

それから第3章については将来像ですから、もうちょっと美しく謳い上げてもいいのではないかと私は思っているんですけどもね。「かくあるべし」みたいなね。ここは本当に豊かな資源に恵まれているわけですから、それをこうやって生かしていければ、将来住民のみんなが豊かな生活を享受できるのだというようなことが書かれれば、将来像らしい文言になっていくのではないかとということですよね。

【委員】先生が言われるように、表現が少なく、ちょっと寂しい感じがします。定住自立圏ということですから、定住する人口ももちろん大事でしょうけど、もっと大事なのは、交流人口がやっぱり増えないとなかなか新しい血も入ってこないだろうし、刺激も出てこない。消費も出てこない。ですからそちらの方は触れないのかどうかということ、ちょっとお聞きしたかったんですけども。

【座長】当然のことですけれども、定住人口を増やすというのは当然のことながら、交流の中からこの圏域が素晴らしいところだという認識が生まれてきて、それで何度も訪れるようになると。交流の次の次点は、いわゆるリピーターのような、何度か繰り返して行ったり来たりしているうちに、その人が例えば東京に住んでいる人だったら、東京に戻った時にみんなに「凄いいところだぞ」と。「大空町なんてもの凄いいよ」と、「一辺行ってみろ」というようなことを。そうすると「そうか」と、だんだん仲間が増えてきて、それがサポーターになっていくと。リピーターがサポーターになっていて、そのサポーターの中から本当に突出した人が「オレ、じゃあ住むわ」と。その時に住む状況、条件がどういうふうになっているかというのが発信できればどんどん増えていく。だからやはり交流人口という、観光でもいいですし、例えば網走の場合だったら、毎年夏にラグビーとかフットボールのスポーツ合宿がなされていますけども、そういう中から「やっぱりこっちに何度か来ているうちに住みたい」という人も出てくるでしょうし。実際に格闘選手が住むようになったりとか、講師とか。講師の人はもともと実家がそこにあっただということのようですけども。とにかくそういう形で気持ち良く、我々の住民仲間になっていくようなシステムというのも当然必要になってくるでしょうね。

そういう意味では観光という視点ももの凄く重要で、今までのいわゆる物見遊山の観光というよりは、体験といいますか感動体験のそういったものが必要だと。そうい

うふうに話し合っていくと何が今までの観光の中で、もっとこういうことをやらなきゃというものが出てくるのではないかと。産業だって、もっとこういうふうにしたらというようなことも出てくるのではないかとはいえますけども。

いずれにしても、そういったものを感じさせられるような圏域の将来像を書いたらいいのではないかと思いますけども。他の地域では将来像をさほどたいして書いていないところも確かにありまして、ですが書きちゃいけないということではないですし、夢を描くのはいくらでも、私は夢がないと連携事業も楽しくできないのではないかと思いますので、是非、網走、大空町のビジョンは楽しいよと、夢がある、ロマンを感じるというぐらいのものを作った方がいいんじゃないですか。

ただ、書いたからと言って全部やらなければいけないということでもないですし、5年、10年かけてやっていくんだと言えば良いことですね。というようなことでここをもうちょっと豊かな形にするということで、第3章、いかがでしょうか。ご意見おありの方。

【委員】やっぱり何かこう決まっている感じよりも、そういう方がいいと思います。

【座長】前回、若いこれからの人の意見もどんどん入れていかなければいけないと、大いに夢を語っていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。よろしいですか、第3章は…。

恐らくこの第4章、第5章の共生ビジョン事業一覧あたりになってくると、シビアな意見が出てくるようになってくるかと思えますけども。一応肝心要のところはこの第4章のところだろうと私は思っておりますけども。定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取組ということで、取組内容は考えられる内容を全部一応網羅したということで。網羅とは全てを示したということではなくて、これが落ちているじゃないかということ、当然ご意見として出てくるんじゃないかと思えます。大きく分けて分野で考えますと、大きくなる分野としては医療分野、広域観光分野、教育分野、環境分野、防災、福祉、産業振興、これが生活機能の強化の分野になります。それから結びつきネットワークの強化という意味では、地域公共交通、地域内外の住民との交流・移住促進といったようなこと。それから圏域マネジメント能力の強化のために、人がどうしても必要になってくるということで、人材の育成とか圏域内市町の職員の人たちの交流ですね。これが重要なんだろうということで、大体こういったことが分野として挙げられているということです。

今日は残念ながら直接医療に係る委員の先生がお見えになっていませんけれども、命という面では食べていくのと同じくらい、医療というのは重要な分野だろうと思えます。特に心配なのは救急医療体制は、どこのまちでも堅実に確保されていないということが、だんだん多くなってきているというようなことで、先回の委員会で、藤永委員の方からこの医療関係の連携協定というのは、8月には皆さんのご努力によって二次救急医療体制が確立できる目途が立ってきているというご意見もありました。先回

も言いましたけど、私は斜里町に住んでいますが、本当に夜になったら国保病院だけではどうにもならなくて、どうしても厚生病院にお願いをすることが現実問題であって。だんだん年を重ねてきますと、余計その思いが、どうなっていくのだろうという心配の方が強くなって。そこらあたりを行政とか、公共的なサービスという意味ではカバーできなかつたら、やっぱり自治体としての意味合いがちょっと問われるのではないかという感じもします。

それから先ほど交流人口、それから人がたくさん定住できるような状況という意味では広域観光が大きな課題になってくる。特に今年は地震、津波等でああいったことが起こると、日本全国に影響が出てしまうと。そういった中でも元気で頑張っている地域もあるということになれば、連携協定のやり方によって結構頑張りようも出てくるんじゃないのかなという感じもします。

そういったようなことを考えていくと、それぞれの分野に、それぞれに協定の事項が設けられております。どれ一つ取っても欠かすことのできない重要な課題であるというふうに思いますけど。

第4章のこの取組の体系のところ、いかがでしょう。何かご質問、ご意見等あれば。いかがでしょうか。余り堅苦しく考えないで、自由に発言いただければありがたいです。

【委員】先ほど先生がおっしゃった将来像ですね、夢があつていいんじゃないかという話、大賛成です。その中でいくと逆にですね、今分野があつて協定事項というしばられた中で書いていますけども、だから「今無いけども、こういうことも良いよね」というのも、もし入れられるのであれば、それもいいのかな。今現実ではないけども、というのは可能なんでしょうか。

【事務局】今年度の予算につきましてはもう既に議会で決まっているものですから、今年度分についてはちょっと入れるというのは難しいんですけども、来年度の予算要求に向けて検討していくということは可能ですので、そういった意見を出していただければ、今後の課題にしていきたいと思えます。

【委員】わかりました。ありがとうございます。

【座長】それは具体的取組には、盛り込めないということですね。将来像というところで盛り込むということはできますよね。

【委員】将来像には全部、いろんなことをひっくるめても良いんですよ。

【事務局】はい。

【座長】そこで大いにロマンを語るような形にしたらいかがですかね。

【委員】今、事務局長がおっしゃった中で私が感じたのは、今載せられないけども、来年載せられる方向にむけて事務局で検討するよという意味でよろしいですか。

【事務局】はい。将来像については具体的に「これをやります」というのは、ちょ

っと難しいですけども、具体的取組の中に盛り込んで欲しいものがあれば、それは当然両方の市町で打ち合わせをしながら、また来年度の予算編成に向けて検討していくというような流れになっていきます。

【座長】いずれにせよ、圏域の将来像のところ、たくさん、こう何か語った方がいいんじゃないのかなとは思いますが。その中から具体的な事業例として一つでも二つでも次々挙げていくと。そういうことで、現況ではこの体系、取り組みの体系というのはこういった形だということによろしいですか。

これに基づいて具体的な取組ということで、医療から順次始まっております。中身については事務局でもあまりこれ以上説明がうまく出来ないということだそうですので。したくないということではありません。

先ほども言いましたが、緊急医療体制は非常に住民の生命の安全ということで、非常に重要なところで、これに対する取組をやっていくというのは、当然今年度で予算も付けられているということでもあります。大体事業概要としてはここに書いてある通りです。

「地域センター病院である網走厚生病院に対し、病院建設資金及び感染症対策への支援を行う。また、地域基幹病院である女満別中央病院の医療機器・施設整備、医師・看護師確保のための支援を行う」という簡単な事業概要ですけども。

【事務局】第4章の具体的取組と、第5章の共生ビジョン事業一覧を見比べながら見ていただくと分かりやすいのかなと思います。第5章の方に個別事業が並んでおります。例えば最初の29ページになりますけども、1の「地域センター病院・地域基幹病院支援事業」という項目で、これにぶらさがっている個別の事業が網走市では2本あって、大空町では1本ということで、この3本の事業の事業費を積み上げたものが第4章の方の13ページになります、1の地域センター病院のこちらの方の事業費の計になります。逆に言えば、こちら13ページの方に書かれている具体的取組というのは、第5章の方の個別の事業をまるめたような、網羅するような形の表現で作っているというようになっていますので、実際の中身の方は第5章を見ていただければ、ご理解いただけるかと思います。

【座長】ありがとうございます。私の説明がちょっと不備、まずかったものですから分かりにくかったかと思いますが、今、説明していただいたように具体的な個別の事業については第5章の方のところで、それを総括したものが13ページになる。その事業概要というのは、先ほど私が読み上げたもので、それを具体的な事業として取り上げると、1番医療、アの救急医療体制の確保というところから始まる「網走厚生病院に対する補助事業、若しくは支援事業、それから女満別中央病院に対する拡充事業」というようなことが書かれているということでもあります。これは先ほども言いましたように、5年間で充足をしていく、5年間の事業ということに

なります。

【事務局】基になになっているのは、今現在の事業です。

【委員】どうもよく分からないんだけど、5年間の計画事業で進んでいるということで、認識していいんですか。

【事務局】現在両市町で取り組んでいる事業を積み上げたものが、こちらなんですけれども、その5年間はこういう事業費になっています。来年度以降の事業費は見込みなんですけども。

【委員】私の能力のないのが原因なのかもしれないけども、非常に失礼な言い方をしますが、建前論だけで、どこか中身がないような気がするんですけども。このままでいけば、これでいいのだというふうだったら、意見も出なければ、何もやらないんだ。議論もしないのであれば、ただ専門家が集まってきれいな文章を作って並べればそれでいいような形でいいのか。ある程度もう少し突っ込んだ形の中で検討する。例えば、文章の中に取り組を行うのであれば、具体的な中身を多少は入れるとか、そういった手法もあるでしょうし。「予算も伴うので」、ただそういった言葉だけで終わらせて、文章だけで終わらせるのであれば、問題ないのかもしれませんが、非常にその辺が納得いかない部分があるんですけども。

【座長】もっともなご意見だと思いますけども、順次、今、医療の方をやっていますけども、事業内容について、やはり事業概要の部分、これを読んでいただけたらもうちょっと理解していただけたらと思いますけども。今現在、不足、不備の医療体制について、不備の部分についてこういうふうな事業がどうしても必要だという必然的な事業概要がここに書かれていまして、これに対して我々がそれだけではまずいでしょと。これはたたき台だから、これで進めていくということではなくして、ここに書かれていることがどこまで変更可能かどうか、私も確認はしていませんけども、事業概要の中でAという項目で書かれているとすると、それは要らない、その代わりこっちを先にやった方がいいんじゃないかとか、こういったご意見は当然、是非いただきたいと思っていますんですけどもね。

【委員】そういう認識ではいるんですけども、先進地で共生ビジョンを結んでいる地域に関しても、やっぱり一番先に出てくるのは医療、福祉なんですね。どこの自治体を見ても。やはりそういったことも、定住にも当然つながるでしょうし、安心して住めることになると思うんです。例えば私の住んでいる東藻琴地域にすれば、やはりそれが一番の不安材料であって、その組織形態が、例えば消防が一部事務組合で網走市が本部になっていると。ところが医療体制は逆に医師会が別々にあるというような歪な形の中、一番被害、被害という言葉が当てはまるかどうかは別として、そういった大変な思いをしているのは住民なんですよ。ですから失礼かもしれませんが、共生ビジョンというのは決して市長、町長のためにやるのでもなく、職員のためにや

るのでもないと思うんです。やはり住んでいる住民に「利」がないと、意味はないと思うんです。ですからその辺をある程度突っ込んだ形の中で、がんじがらめにするのではなくて、前回先輩の方が言われましたけども、協議会ではなくて懇談会ですので、その辺がどの辺までこういった意見が生かされるのかといったものも感じるところで、その辺がどの辺まで具体化できるのかということが、一番心配なんですよね。

今日、大空町においては、「農業関係が出てないとはどういうことだ」と言って、事務局はかなり厳しく問い詰められましたけれども、そういうことも鑑みないと。やはり今後も差し障りの影響が出てくると思うんですよね。ですから全部網羅すればいいというものではないですけども、そう思います。

【座長】ご意見、よく分かります。我々は懇談会という形で進めておりますので、だからもっともこの中身について、このたたき台として出されているものは、両市町の協定項目に基づいて、一応整理されているものだと私も理解しています。従って、これに対して「いや、そうじゃない」、現地に住んでいる人間として、この医療については、極端に言えば「ドクターヘリのことが何も書いてないじゃないか」とか、いろんなご意見をいただいてもいいと思うんです。

観光ということになれば、私の住んでいるところばかり言って申し訳ないのですが、ウトロなんて診療所が一つしかなくて、医者が1人しかなくて、ほとんど夜中に救急患者が出るとそこに連れて行くんだけど、そこから救急車を呼んで網走まで直送というようなのが現状なんです。そこらあたりをどういうふうにするか、もうちょっと違った医療体系がとれるのか。お医者さんの方だけの意見じゃなくして、医療サービスを受ける側の要望、意見等もこれに盛り込んでいかないと、あまり意味のあるものにはならないんじゃないかと思っています。そういう意味では、委員と全く思っていることは同じだということなんです。

特にこの部分で、これをもうちょっと、「ただ単に項目だけじゃないか」とか、「この部分について、私はもう是非これをお願いしたい」とか、そういうご意見をどんどんだしていただければと思っていますが、いかがでしょうか。医療の専門家が今日お見えになっていないものですから。私も医療の専門の人間ではないので、医療を受ける側で医療を考えているというぐらいなんです。ここらあたりは、もしよければ次回、(病院)院長さんがお見えになった時に、もう一回改めて意見を交わすと。医療の専門家がいないと空理空論になってしまう。現実には語るんだけどもそれに対処する論理というのが非常におぼつかないような気にもなりかねませんので。ここらあたりの問題については少し保留ということで、次に行きたいと思います。

ちょっと確認させていただきたいのは、医療の項目については大体網羅されていような気がしますので、こういう項目で中身をもう少し充足をしていくというようなことでよろしいですか。それではそういうことで。

次に第5章の31ページ、広域観光のところ、第4章では17ページです。第5章の方の資料めいたもの、今ご覧になっているところは、ページ数でいくと31ページということになっています。この見方は先ほども説明がありましたように、17ページの方は広域観光の推進の基本的な取組、これを概要的に書かれると、「観光振興による圏域の活性化を図るため、国内及び海外からの観光客の誘致に取り組む。」ということで、具体的には31ページの網走市では三つ、大空町では二つと。こういった項目が国内・外国人観光客誘致事業として挙げられているということになっています。

【委員】まさにこの通りです。実は先週台湾に行きましてね。私も同行しましたが、水谷市長と山下町長と一緒に、大空町と網走市で台湾に対して、まさにこの通りのことを、もう既に実施しています。

【座長】ありがとうございます。

この部分についてはいわゆるシステムを少し、それと相手に対する働きかけというようなことになろうかと思うが。ただ私なんか思うのは、もう少しここにはない事業で、すぐにできるかどうかは別としまして、今年度はもうこれで走っているわけですから。やっぱり人が人を集めるというのは空港を整備するのも凄く重要だし、道路をきちっと整備するのももの凄く重要なことだし、エクエイティブというのですが、周辺補助施設をこういったものを完備していくのももの凄く重要ですけども、本当はそれ以上に重要なのは、それぞれの地域に人を呼び込むためのアトラクティブをどう作っていくかという、その努力があって、簡単に単純に言えば、そう簡単ではないと怒られるかもしれませんが。「網走市、大空町には、これがあるから行きたいんだ」と。「空港が少々不便でもいいよ」と。「とにかくあれがあるから行きたいんだ」というようなものがあれば、道路が少々悪くても、アクセスが悪くても行きますよと、私は思っています。

空港が立派になって、道路が立派になって、それはもの凄く重要なことだけど、だからどうするんだっていう話というのが、どうしても出てくるんじゃないのかと。私は素人ながら思っちゃうんですけど。そのあたりどうでしょうかね。

【委員】この中にチャーター便の誘致という項目がありますが、実際問題、今チャーター便が激減して、去年あたりも一往復ぐらいしか飛ばなかった。いろんな要因があるんですけどね。今回台湾に行って台湾の航空会社に話してきたのは、女満別空港は北海道管理の第3種空港なんです。北海道との今までの話合いの中で、着陸料は無料にするということになったんです。従来は、北海道は半額を減額ということだったんです。残りの半分を網走市なりが負担して、昨年あたりは着陸無料にしたんですけど、今年から北海道が正式に全額チャーター便についてはただにしますよと。併せて空港ビルの使用料というのがまた別にかかるのですが、これについても関係市町村で負担をして、ただにしますよということにして。それを含めて台湾の航空会社に行っ

てきて、チャーター便の誘致の要請をしてきたという状況になります。これをやらなければ、残念ですけど他の空港と太刀打ちできないんですね。

一番言いたいのは、利便性だとか言っても、北海道の場合は全部千歳空港なんですよ。そういうふうだんだんなくなってしまっているんです。釧路だって激減しましたよね。それぞれの空港が今、そういった状況に置かれているんです。それに乗り遅れないことを含めて、今回台湾に対してチャーター便の誘致の要請をしてきたという状況です。

【座長】分かりました。ありがとうございました。

【委員】私も観光の分野から出席させていただいていますので、そういいながら一番観光の分からない一人だなとは思ってはいるのですが、やはり空港の宣伝、そういったアピールも大切ですけども、一番大事なのは、如何に観光資源を位置付けるのかというのが、一番の可能性だと思います。この地区には世界遺産という知床があったり、それをいかにアピールして肉付けをしていくか。それに伴って、道の駅ですとか、それに関わる人たちも経済効果を生む。やはり基本的には観光資源の核になるものをもう少しアピールし、そして肉付けをしていくことが一番ではないかなと。

先ほど先生もおっしゃったように、こういう表現をしていいのかわからないのですが、JRの事故があったり、そういったこともありますので、やはりこの地区に来るとドクターヘリも完備されているし、病院機能もきちっとしているということがあれば、観光客も安心の一つの要素にはなるのかな。その関連も先ほど思っただけです。こういった不景気になると企業とかを誘致するのは難しいことが多いですが、如何に人を誘致するのかというのが、一番これからの課題かなと思います。

【座長】ありがとうございました。観光というのは本当に難しいもので、いろんな側面から考えなければいけないというのが当然あるかなと思います。特に最近私が思うのは、広域観光ということを考えた時に、もう少し広い範囲で連携するということが必要になってくるんじゃないか。今、委員がおっしゃったような、なんか客を奪い合うようなとかですね、こっちがこっちより向こうの方が不便だぞ。こっちの方が便利だとか、きれいだとか、無料だとか、それももの凄く重要なことですが、それって北海道の中でやり合っているということは、どうなんだろう？とか。それが現実なんだということもあろうかなと思います。そうすると、例えば広域圏でルートを共同して作るとかですね。釧路から入るときはこういうルートがお勧めですよとか、女満別から入るときはこうですよとか、札幌から入るときは…、というようなことも当然話合いがなされているということも聞くのですが、どうも最終的にはまとまらないという状況の中で、ビジネスですからね、協力、協力と

言いながら最後はそういうことになってしまうという部分もあろうかと思えますけども。ただ平たく言うとこんな素晴らしいこの地域、圏域を競争し合って、あそこに行くよりこっちが良いよというのは、ちょっと大変怒られるかもしれませんが、悲しいなっていう思いの方が強いんですけどもね。いかがでしょうか。他にこういったことに関して、どうですか。

【委員】特にありません。

【座長】一番頭を悩ませているのではと思いますけどもね。

他にいかがでしょうか。

【委員】観光とか直接は携わっていませんが、せつかく大空町と網走市なので、例えば環境と観光を同一というか、縦割りにせずに環境と観光が一つになってもいいのではと思います。要するにさっき委員さんが言われたように、特別なことで誘致を優先でなくて、地域の人が暮らしやすければ、それが形となって観光になっていくようなのが一番望ましいかなと思います。前から思っていたのですが、例えば今北方四島の問題がありますが、知床は世界遺産で確かに良いですけども、もし北方四島が世界的な形で観光資源になった場合、知床は恐らくかすむと思うんですよ。むしろ道東、女満別空港を中心にした観光資源として残ってくるものは、北方四島にないものがなんだと言ったら、ゆるやかな田園風景、そういうものが将来的には重要になってくる。四島に対抗できるのはそういう形でなかろうかという将来的なビジョンですね。それにはどういう農村景観が良いのかということになると。今日たまたま私は仕事で厚岸の方からずっとこっちの方まで、飛行機で撮影したのですが、見ていてあまりきれいではない。きれいではあるけれど、それはあくまでも日本全体の風景からいけばきれいなんですが、例えばオランダとかヨーロッパからしたらどうだということになると、それほどでもないんです。ということは何かというと、建物の建て方とかいろんな個人のいろんな堆肥置場だったりとか、いろんな形が無秩序になっているので。それを事業化ということで、今回、もしできるのであれば、例えば建物の壁と屋根の色を何色か指定して、それをすれば税金を安くするなり報奨金の形で。補助事業みたいに、この色でなければダメとか、何平米でなければダメとか、そういうことではなくて。報奨制度みたいな形で、「あなた、大変これみんなの評判いいよ」と、だからこういうことをしてあげようとかいう形が、行政側からできれば進められるのかと。それは例えば新築するとき、改築するとき、そういう形になれば、それが10年、20年経って、四島が観光のメジャーになった時に、こちらで唯一対抗できるのはその成果だという形じゃないかなと。そういう10年、20年先、これから想定できる範囲の中での対応をやるのであれば意味のある話で。

あと観光というのは安くて便利であれば、確かに今のところは良いんですが、将

来的に今のようなツアーとか団体の客相手の形で利幅の低い観光ですよ。観光行政にしてみたら、そういう観光がいつまで成り立つのかということを考えれば、やはりさっき言ったように高くてもわざわざ「とにかく行ってみたい」と、最終的に「住んでみたい」となるには、観光と環境が同じでなければ、そういうことにはならないと思うんですけど。そういう意味と、委員さんが農業と河川ということで、川上の人、川下の人というようなことではなく、環境教育というのが凄く大事だと思うんですが、地域全体がもう少し、そういう質の高い、レベルの高い地域にしていかないと。何かお金下さいみたいな、質の低い、レベルの低い住民というか、地域であっては観光はおぼつかないと思うんです。

最後に一つ、シラフではなかなか言えないので、これ本当は酒が入った方がよく言えるので、これは個人的な意見です。以上です。

【座長】 次回は酒でも出してもらいますか。ありがとうございました。

そういったようなことが、将来、例えば5年間、段階的にやっていくということかどうかも、私はまだ理解していないのですけども、次の2年目のとか3年目のとか、という形に進んでいく。そのための意見として、こういったご意見を整理していきたいと思います。今回提示されたのは、とりあえずとにかく外国、国内、外国人の観光客をどうすれば引っ張ってこれるのかというのが、今年度の事業内容ということになっていますので、一応この事業内容としては空港整備であるとか、基本的にはそういったようなことですね。私も結構あちこち外国へ行きますが、空港使用料がこんなに高いところはあまりないですよ。もちろん高いところもありますけど。観光を語りだしたらもっともっと一晩中かかりそうなので、一応この取組内容を踏まえた上での議論としては、当面チャーター便のプロモーション活動、そういったことは既にやっていることで、この次の段階は何なのかということを考えながら進めていくことが、きっと重要になってくるでしょうね。

いかがでしょうか。この点について、他にご意見等あれば、何でもおっしゃっていただいて結構です。

【委員】 空港使用料が高いというお話、私もその通りだと思います。今週女満別空港ビルの株主総会があるんですけど、私もそちらに出ていますが、空港ビルの使用料がやはり高く、なかなか店舗を出したくても、出しても使用料が高くて払えなくて、また退散してまた新たなお店ができたりとか、そういうことが結構あるので。空港ビルの会長さんは網走商工会議所の会頭ですから、もう少しその辺で何とかお安くしていただいて、空港の使用料も安くしていただいて、できるだけ多くの方に使ってもらえるような、来ていただけるような仕組みにすることも大事なんでしょう。あと、同じく駐車場の料金ですよ。これも道にも少し下げているようなんですけども、なかなかまだ高いなと思っていますし、空港全体を考えればもう少し地元の住民

がそこに行って楽しめるような、そういう場でもあつて欲しいなと個人的には思っています。

【座長】ありがとうございました。いろいろ空港一つにしても、今おっしゃったように課題がいろいろあると。安くしてもらうのが良いのか、今の現状でも高くても良いから、もっとそれ以上に楽しいというか、もっと素晴らしいと、「それだけ出しても構わないよ」というくらいの魅力があれば、ひよっとしたら「良いよ」ということになるかもしれないし、そこらあたりの考え方ももっと議論を戦わせることは必要なのかもしれませんね。あと、おっしゃったように空港に地元の人が遊びに行くっていうのが、中部の空港みたいに遊べるような施設がもっとあれば良いですけども。レストランがいくつかあるくらいの話で、そこらあたりも今後の課題として考えるべきところなんじゃないかというふうに思いますけども。いかがでしょうか。会頭に言っても、「安くしてあげますよ」とは、なかなかそうはならないと思うんですけども。

【事務局】大空町総務課の山本です。今、空港の件がちょっと出ましたので、取組み等ご紹介したいと思います。

当然ここに書いてあるものは両市町の担当者の中で連携したらいいんじゃないか。それから今後想定されるのではないかというものをピックアップしております。当然いろいろ皆さんの中からいろんな意見が出てくるものについては、当然将来像にこんなことがあったら良いとか、いろんな目標、いろんな意見を出していただきたいと思えます。そして、それをもって両市町の担当者も皆さんの素朴な意見もかみくだきながら、今後それぞれの意見に向かって、23年度はとりあえず今予算ベースが出ているものでございますが、24年度以降につきましてはそれらの意見を踏まえて、私どもも真剣に考えて、より良い地域づくりを考えていきますので、ここには載っていない部分としても意見をたくさんいただければ、私たちはまだまだ努力するべきだと思いますし。なにせ非常に私たちも実は勉強不足で、同じ行政はしていても、隣の町の担当がこういうふうに考えているとか、なかなかお互いのまちのホームページを見ることもなかった。ところが、今回の定住自立圏がありまして、初めて両市町の担当者と顔を合わせて、「こんなこと考えられないか」とか、実は寂しい話ですが、顔を突き合わせて会うことができ、初めて協議を進めていくことができました。そんな意味では皆さんも当然、疑問に思っているかもしれませんが、私どももやはり一番最初にありました両市町の職員間の交流も含めて、今回の機会を通じていろいろと網走さんのやっていること、それをうちのまちに置き換えても、いろいろと進めていきたいと思うので、ご協力お願いしたいと思います。

空港の関係ですが、今年の部分としては、道の方に空港駐車場料金を下げてもらいました。かなり強力で道の方にもお願いして。

それと、道のチャーター便の着陸料についてもお願いをして無料にさせていただきました。

た。ただ、それだけではなかなか人も集まらないということで、今年は大空町で空港ビルに補助を出しまして、空港賑わいづくりという事業を初めてやることにしました。5月15日には春フェスタということで1回やって、8月7日にももう1回やります。これはやはり空港に、先ほどもありましたが、テナントさんに売り込みが減っている、ピークから比べると、利用者も40万人くらい減っている。そうすると当然収益も落ちると、もうぎゅうぎゅう詰めの状態ですから、何とかして周辺の人にも来て欲しいということで、町が補助を出して賑わいづくりをやって、抽選会をやったりコンサートをやったりということでやってますし、絵とか写真を飾れるように通年でパネルを作って地域の人に利用していただくことで、取り組んでおります。5月の時には約200名ほどの方に来ていただきまして、そのときは駐車料金は1時間ではなくて2時間まで無料にして、そういう形で、これも長く続けないといけないと思っておりますし、我が町だけでなく周辺の町からも、空港で何かをたくさんやっていただくことで、また、地域の方々に足を運んでもらうことをしていきたいと思っております。

実はここに書いていない部分があるのですが、なかなか町が直接ではなく、そういう形で空港ビルのやっていることに町が支援したりということもありますので、実はまだまだ書ききれていない部分が多々ありますが、その辺を加味していただいて、皆様のご意見をもらえればと思っております。よろしく願いいたします。

【座長】ありがとうございます。

今、お話があったような事柄も、我々の方からどんどん、たくさん出して、それを蓄積しておいていただくことも重要なんじゃないかと思えます。「ただ聞きましたよ」というだけでは困りますけども、何とか具体化しようという方向性を持ちながら話を（蓄積していただいて）。

非常に今聞いていて羨ましくなったことなんですけど、先ほどお酒飲みながらというのもありましたけど、こういう場をもうちょっとみんなで、ざっくばらんに話し合ったりすると、面白いことが増えるんじゃないかとか。今後これが終わった後には、この会をどういうふうにかけていくかとか、そんなことも考えたいなと思っております。私が勝手にそう思っているだけの話なんですけど。

一応、広域観光については、とりあえず入口の部分の空港関係のプロモーション等々についての事業、これは23年度はもう既に台湾の方には具体的にやっているという話もありましたので、今後更にどういったことがプラスされていくかということを抑えておいていただいて、もっともっと観光は、本当やらなければいけないことが山ほどあると思うんですね、空港だけの話ではなくて。これをきっかけに連携をもっともっと深めていくと、またアイデアが出てくるというようなこともあります。そのきっかけにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に教育という面での連携ですね。18ページ、生涯学習の充実ということで、第

5章は32ページになります。ご覧のとおり生涯学習は、連携して協力しながら、こういったことが進められていくべきだろうということで、網走市では4件の事業、これは既に始まっています。大空町では三つですか、これが始まっているということで、これもだんだんブラッシュアップしていくことになっていこうかと思imasuので、そのためにも、是非皆さんのご意見ですね。社会教育施設の相互利用事業について、いかがでしょうか。関係各位の委員の皆さんからご意見を賜ればと思imasuが。

【委員】生涯学習に書かれています図書館はじめ芸術文化の取組は、もはや数年前から両市町で連携を持って行っているわけです。ですから私から見ますと、ここに両市町の予算と事業を書いたんだなと思うわけでございますが、この機会に先ほど将来像の中にも私はちょっと足りないなと思うのは、やはり子どもたちが夢を見られるまちづくり「定住圏」。親がやはり今、子どもに「原発は恐ろしいから別な町村に行くよ」。あるいは、「あその町が良いから、ここに住もうじゃないか」と。少ない子どもたちのために、いろいろと気配りをする時代になったんですね。ところが、この両市町の中にも、そういう単発的には施設がある。がしかし、それを動線あるいは教育動線で人口を呼び寄せるための魅力をもった施設整備がされていない。網走市の呼人にあります体育のグラウンドに、子どもの施設がありますね。私は非常に良いなと思imasuけど、非常に規模が小さいですね。これあたりをやはり夢を見られる教育、文化、芸術、それらを総合的につながっていくようなまちづくり「定住圏」を作っていくような、これからの整備をしていく必要があるんじゃないか。そんなことを思っています。

【座長】大変ありがとうございました。全く、ご意見同感いたします。

【副座長】私が網走の社会教育の関係ということで、この会に来ておりますけども、今、委員さんがおっしゃいましたけども、いずれにしても今、両市町、網走、大空町で現在行われている事業をピックアップして、定住自立圏共生ビジョンに載せたということですので、特に網走の方から見ても、特段この共生ビジョンのために始めた事業ではございませんので、具体的にはこの辺の事業がとりあえずとっかかりということになるのかなとは思って見ておりました。

ただ、網走市の場合、社会教育施設が美術館もありますし、また博物館もござimasuし、その辺の分野のことも入ってきてもいいのかなという気はして見ております。博物館は今現在モヨロ貝塚の方の施設もようやく予算がつきまして、工事着工ということで素晴らしい施設がまたできてきます。

先ほど委員さんおっしゃいましたけど、子どもたちの教育等にも、お互いの町でそういう施設を利用して、新しいまた連携した事業なんかも考えられるのかなと思って見ております。

【座 長】ありがとうございました。

この社会教育というのも本当にすそ野が広くて、また上を見ると限りなくやるべきことがいっぱいあると思いますけども、とりあえず第5章で書かれているのは、まず入口のところのような気がしますけども。これをやりながら一步一步足元を固めながら、網走には若しくは大空町には大変文化的な施設もいっぱいありますと。これもっと有効に利活用すると、モヨロがだいぶ出来上がってきたという話もありますけど、縄文人から学ぶ知恵というのも、子どもたちだけでなく大人にも充分あるかと思います。そういった教育の機会を広げる事項を、もっともっと両市町で話し合っただけで広げていくということが、もの凄く重要になってくると思いますので、是非どんどん今後も意見の交換をし合うことがもの凄く重要になると思います。実現するかどうかは別問題だとは言いつもりはないですけど、やっぱりたくさん出さないと、実現する数も少なくなってくると思います。

あとイベントの開催情報云々という事業も、今既にもうやっていることでしょうけども、既存の施設、両市町本当に良いものがありますので、それが本当に活用されているのかどうかということを考え直すことも必要ではないかと。それで、単独で大空町の施設、若しくは網走市の施設、これを単独で使うよりも、事柄によっては両方で共同で利活用し合うことによって、もの凄い相乗効果というのが更に出てくることも、今後は考えていかないといけないんじゃないか。せっかくこういう機会ができていますから、やはり最終的には人との交流の中から、ハードも生きてくるというようなことがあろうかと思いますので、是非、社会教育の面でも社会教育だけでなく全部、観光の面においても産業の面でもそうですし、特にこの後に出てくる交通というのも本当にそれこそそうだろうと思います。大変重要な事柄になってくると思います。一応次回の時までにもうちょっと深めた議論を進めていきたいと思います。

【委 員】今先生がおっしゃった人の交流だとか、情報の交流だとか、非常に大事でまさしくその通りだと思います。その中で先ほど大空町の参事さんがおっしゃった中で、行政の人同士がしゃべることがめったになかったと、一緒にしゃべって相談して非常に実りがあるよという話をされましたが、それは凄く貴重なお話だというふうに感じたんですよ。この中にも交流とかありますけども、**横串**を入れる意味で人的交流という項目を一項目、今入れなくても、次回入れるとかいうことをお願いしたいと。特に行政の人がそういう交流ができる、情報交換できる場を積極的に作っていくんだというようなことをやると、それがいろんなことに波及していく。地域も広がっていく可能性があると思います。是非お願いしたいと思います。

【座 長】ありがとうございます。

そういう意味では、この第4章の取り組みの体系のところ、一番下の方に書かれ

であるのが、本当は一番重要なんじゃないかという感じはしますけども。

【委員】 ああ、あるんですね。

【座長】 人材の育成とか交流とかね。これがなければただ単に箱とか、物があるだけということで、実際こういった連携協定の実を結ぶためには、人と人とのつながりを、どれだけ深めていく、強めていくという仕組みを話し合う必要があると私は思います。そういう意味で、この下の部分をどう取り上げていくか。

【委員】 例えばこの説明の中で、有機的なつながりを深めていくような、何か上手な（仕組みづくりを…）。これだとみんなでただ座って「勉強しましょう」ではなくて、もっといろんな取組について「一緒に考えよう」というようなことを上手く表現されたら素晴らしいと思います。

【座長】 極端な話ですけど、本当は今私がこうやって進めている進め方にも、私自身無理があるなと感じながら進めているのですが、これ全部、項目一つ一つやっていくよりは、それぞれの分野で分かれた方が良かったのかとかね。だけと私は一通りこの2回目はやろうと、全部皆さんが参加してやろうと。それで3回目に一応きっちりしたものが、もう一回ご意見を賜るというつもりでおります。本当はずっとこうやって行くべきだろうと思うんですね。だから今後、今この段階で、私の立場からこういうことを言うとちょっと不適切だと怒られるかもしれませんが、私はこういったもので希望のある人だったら、一泊二日の研修授業みたいなものも、是非この中に入れて欲しいというふうには思っているんですけどもね。

【委員】 例えば網走市民会館ありますよね。施設を網走市民が利用するとき、利用料金設定されると思いますが、それが網走市民以外の方が利用するときと料金設定は別なんですかね。

【委員】 同じです。私は以前、社会教育にいたので、知っているんですけども。普通の市民も市民以外の人、普通に市民会館の部屋を借りたり使うときは、全く金額に差はないんです。市民会館で有料で物を販売するとか、イベントをするとかいうときに、有料でやったときに、市外の業者と市内の業者で金額に若干差がついているというふうになっているはず。それ以外、普通に使う分には違いはありません。

公の施設ですから市外の人が高く、市内の人が安くということは当然できるんですけども、ほとんどそういうことをやっている市町村はなくて、みんな他所から来た人も地元の人と同じ金額で普通は使えます。網走もそうです。

【委員】 格差があるんだったらお互いに交流する中で、料金の設定なんかも考えてもいい事項なのかなと思ったものですから、今確認の意味でお聞きしたんですけども。

【委員】 （大空町の）社会教育施設は有料化になりまして、町外の人には有料にな

ってきました。ゲートボール場、パークゴルフ場などは有料化になったということですが、大空町の場合は、まだ藻琴と女満別（の施設）に違いはありますけれども、体育館とかグラウンド、野球場を使用するときは、他町の人是有料化されておりますので、これあたりもこの事業が進んでいく上においては、何らかの形でしていかなければならないんじゃないかと、私は考えていました。

【座長】せっかく連携して協力して進めていくわけですから、バーターじゃないですけども、お互いに双方で融通し合うという考え方もありますよね。それは話合いが成立すれば、それはできるわけですから、そういったことの第一歩も話し合いで進めていくということも必要なのかもしれないですね。分かりました。

教育、特に生涯教育というのはもの凄く幅が広くて、何分何分で話していけるというものではないです。どの項目も全部大変な項目なんですけども、かなり時間も迫っていますので。今日一応予定としては環境あたり、若しくは生活環境、衛生環境あたりまで、とりあえず一応今日の区切りにしたいと思いますので、次回防災あたりからと考えております。

4番目の環境、19ページですけども、地域ぐるみによる環境関連活動の推進ということで、このような事業項目が挙げられているということでもあります。第5章の方では34ページになります。環境もまた幅が広くて、自然環境からごみ環境から、言い出したら全部が含まれていますけども、その中でもとりあえずここに出されているのは地域美化活動支援事業。これは網走市も大空町も一つずつあると。それから河川環境保全対策事業ということで、網走市は一つ、大空町は二つというようなことがあります。ここでは主に川環境ですね。これはどこの町でもそうでしょうけど、川の環境というのは川だけで終わらない連続したものですので、非常に重要な部分かと思えますけども。いかがでしょうか。この部分でご専門だという方、いらっしゃるんでしょうか。

【委員】藻琴川、10番ですね。河川環境保全対策事業ということで、河川という大きい河川で（藻琴川と網走川の）両方からんでいると。網走川も実はあるんですね。ただ網走川は協定（の具体的取組）に載っていないということで、載っていないのであれば、次回は載せていただきたいと思います。

【座長】はい、分かりました。

【事務局】網走川を外しているということではなくて、網走川も協定書の中に含まれています。圏域内の河川流域の環境ということになっていますので。ですが、ここは両市町がからんでいる事業がたまたま藻琴川しかなかったもので、ここには藻琴川しか載せていないんですけども。前回委員からお話があったように、網走川流域での共同宣言の関係ですか、そういった取組もされているということであれば、10番のところで並列に、藻琴川と網走川というようなことで載せることは全然差

し支えないです。

【委員】載せてください。

【事務局】はい。

【委員】当初言いました課題といった話でいきますと、例えば網走川は泥水がひどいです。泥水がひどいのと、あと窒素が結構多いだとか、結構網走湖の問題もありますね。そういう課題を載せてくれると、課題はあるよと。で、今はないよというのが見えてくる。何かしないといけないというのが、将来出てくるかもしれないというので見えてくる。あと、藻琴川の事業概要に書かれているやつですけども、ちょっと残念だったのは、河川環境と流域環境保全のために必要な協議活動に参加すると。「参加する」なのかなというのがちょっと疑問ですね。河川環境と流域環境の保全を推進するだとか、そういうことではないのかなと。実際、事務局は網走市ですし、自治体は網走市と大空町しか入っていないんですから、是非「推進する」にさせていただきたいと思います。

【事務局】それは持ち帰って検討させていただきたいと思います。

【委員】ちょっとずれちゃうんですけども、事業一覧と、この今見ている19ページだとか、これが分かれていることの意味がよくわかりません。一緒に書いた方が分かりやすいんじゃないかな。というか少なくとも事業一覧にかかっている文言は、ここに入っているもいいんじゃないかなと思います。

【座長】9番と10番が別々に書かれているという。

【委員】いいえ、違います。10番の例えば河川環境保全対策事業というのが、これでいくと、網走市、大空町と三つ並んでいますよね。この文言がこっちにも書かれていて良いのではないかと。結局こっちの方が詳しいんですよ。事業概要とくっつけちゃって一緒にいいんじゃないかっていう。一覧表なら一覧表で、もっと逆に簡単なやつをべろっと一枚で見れるとか。

【座長】そこらあたり、別に技術的なことだから問題ないですよ。

【委員】その方が両方を見なくて良い。分かりやすいのではと。

【座長】河川環境保全対策事業というのは全部予算が付いてませんね、0円というところで。

【委員】人的努力で何とかというか、協議会自体に加入している自治体、団体が入っています。それぞれがみんなで努力していこうねと。北海道も入っています。国も入っていますしね。それぞれが自分の持ち分の中で努力しましょうね。その進捗を確認しながらビジョンに向けて進めましょうというのが、この協議会の姿勢です。

もう一つ、追加で申し訳ないですけども、一覧表の中の藻琴川環境保全の藻琴川を美しくする会。これは東藻琴の末広のお父さん方が頑張っていて、実は私

もメンバーに入れてもらっているのですが、ちょっとこの表現をもう少し…。クリンソウをやったのは1回だけです。10数年この地域の人を中心になって藻琴川の河川清掃をやっているんです。そのあたりを上手に書いていただければ、ありがたいなと思います。

【座長】その他、大丈夫ですね。では、ちょっと文章を考えてください。

【委員】インターネットに概要が出てますので。

【座長】インターネットを確認してください。他にいかがでしょうか。

川が汚れているとか、川がだいぶ泥が溜まってきたとか、いろんなことがあるかと思うんですけど。そういったのは実際川に近づいてみないと分からない。気付かないということがあるものですから。例えばもう少し川に注目するようなイベントとかですね。そういったものも実際に「久しぶりにイベントがあったから、川に来たらえらい汚れているな。10年振りだ。」とか、そういうのがあって良いんじゃないかと思えますけどね。

【事務局】過去にはですね、子どもたちを乗せて美幌から網走までカヌー下りをしたんです。私も実は網走川流域の女満別豊里というところにおいて、よく釣りをしたのですが。その頃は網走川というのは深くて怖くて、凄い流れの急な川だったんですが。ここ数十年の間に、カヌーに乗ってもカヌーの底がつかえてしまう。人間が押さないと流れていかないんです。部分的に流れていくように見えるんですけども。全体で美幌から網走まで来ると、途中でカヌーが進まなくなります。そのぐらい浅くなっているのが現状です。ところがその取組も、最近はなかなか無くなってしまって、10年くらい前に無くなったんですが。そういう環境も、実は子どもたちが乗ることで大人も知ったという現状です。

【座長】だから、なお更私もそう思うのですが、親水性というのですか、川に水に親しむという、親水性促進のための事業とか、そういったことも重要になってくるんじゃないのかと。

【委員】今の例えばそういった取組をするときに、網走の子ども達も一緒に呼んで、役場が二つ一緒になってやるよとか言ったら素晴らしいですよ。例えばそういうのはさっき委員さんがおっしゃった、地域の素晴らしさにもつながってくるのかなという気はしますよね。

【座長】何かやるときに、過去にそういうのをやっていた人がいて、それをもう一回掘り起こして、それを参考事例にして、それを踏まえた上で何か新たに展開をしていく。網走川でも川祭（かわつたさい）というのをやっていて、あれも何のためかと言ったら、一番最初は川に関心を持って欲しいということで、川祭が始まったはずなのに、何かイベントだけになっちゃったとかね。

【副座長】まあ、いろいろありましたよね。いろんな団体で川の取組なんかも（さ

れていましたが)、私もちょうど20年くらい前に、ある団体で網走川の源流を探そうということで、その団体で募集した子供たちと一緒に津別の奥まで行って、本当に源流に近いものを探して、ずっと登って行ったことがありますけども。なかなか単発で（終わってしまって）ね、それが継続して次から次とつながらないという部分もありますのでね。

【座長】ありがとうございました。

あと生活環境、衛生環境の向上ということで、廃棄物はもの凄く大変重要な部分で、どうしても人間が暮らしているとなると廃棄物は絶対出るわけで。これをどういうふうに両市町が連携協定しながら進めていくかというのは重大事項だと思います。これについて今ご覧のような第5章では35ページ、第4章では20ページのところですが、いかがですか。この部分に関して何かご意見等あれば伺いたいと思いますけど。

【委員】ごみに関しましては、現状と課題が書かれているとすると、大空町の現状と網走市の現状を並べて書いたら非常に分かりやすいと。大空町は、東藻琴地区の生ごみは東藻琴の農協さんでやっていますよね？（津別だとの声あり）

東藻琴は止めたんですか？東藻琴地区も女満別地区も全部津別でやっているんですか？そうですか。津別の農協さんと役場と、農協さんの堆肥場で処理しているんですよね。津別の役場に聞きましたところ、6、7年前にごみの埋め立てがあと何年かで満杯になると大騒ぎになりました。その中で生ごみの堆肥化を始めた。「ほとんど水だから無くなるんだよね」という話なんですね、それを家庭菜園用に配っているんだと。埋めるところが無くなるっていうのは、かなり長生きしたみたいですね。そういう現状もありますので、是非現状と課題の中で、実態とね。実は網走市は生ごみで今悩んでいますので、そういう課題を書いていただければありがたいなと思います。

【座長】どの市町村でも、全国を見てもごみの処理にはつくづく苦勞して、それで一つの政権が潰れるくらいの状況になるということもありますのでね。

この部分については両市町、これだけの連携の協定を結ぶということであれば、是非ここは重点項目として、いろんなことが考えられると思いますので、意見を更に集めることは必要なのかもしれないですね。そういう意見を集める機能というか、仕組みも併せて考えた方がいいかもしれないですね。どうするかという解決策だけでなくして、どういう意見があるのか。皆さんごみを出しますから、ごみ処理してもらわないといけないし、これは万人の問題ですね。

【委員】あと、生ごみの他にも分別（の問題があります）。確か津別も結構分別を一生懸命やっているし、大空町もやっているんですよね、どちらかというとなね。それで埋立処分場がかなり楽になっているという実態もありますので。そのあたりも

データで比較するのもいいんじゃないかと思います。

【座長】ここらあたり、是非ちょっと工夫をお願いしたいと思いますけど。他にいかがでしょうか。

一般廃棄物処理についての広域な連携構想について、何かご意見等があれば。よろしいですか。

改めてここまで深くは考えていないという状況の方もいらっしゃると思いますので。次の回で一応まとめたいと思いますので。今までやってきたところはもう一回再整理を、委員の皆さん方にも再整理を頭の中でしていただいで次回に備えていただきたいと思います。

もう15分やってもいいなと思っているのですが。だいたい会議というのは2時間未満が一応、2時間になるとほとんど頭の中が、同じことしか考えていないということになってしまいますので。事務局の方は不満かもしれませんが、私としてはこのあたりで一旦区切って、次回に回したいと思います。

今回は5番目の防災のところからやっていきたいと思いますので、更なるご意見を賜るために、今まで4番までのところも含めて、少し皆さんにも意見整理をお願いして、今回は終わりにしたいと思います。

何か他にご意見、何か言っておきたいことがありましたら、いかがでしょうか。よろしいですね。事務局の方で何か。

【事務局】今回は予定通り7月19日、火曜日、同じ時間と場所で開催いたします。一応最後ということで、最終の懇談会として予定しておりますので、是非ご都合をつけて出席をお願いしたいと思います。本日の懇談会はこれで終了させていただきます。

【委員】あっ、いいですか。課題については今日やったところまでの課題ということで拾い上げて、付け加えるということで認識してよろしいですか。課題は、現状に加えるのか、ここ（具体的取組）に加えるのかは別としても、課題というのがないと先が見えないというか。

【事務局】そういうふうに、努力したい。

【座長】とりあえずそういった形のものを、次回（提示していただくと）。

【事務局】また、ご案内の時に資料で送付します。

【委員】次回が最終回ですか。

【座長】ということになりますね。最終回を本当に最終回にするのか、何か機会を設けて、予算化してもらってですね。

【事務局】次回の進み具合にもよりますが、こちらの方の都合で申し訳ないんですけども、今後のスケジュールでいくと結構厳しい状況がありますので、またその時点で考えさせていただきたいと思います。

【座長】要するにこのビジョンの作成は、当然もう時間の問題もありますから、

やらないといけないけれども、更に検討する機会というのは、当然私は作っていくべきだと思うんですね。一応作成はするけれども更にブラッシュアップしなきゃ、どうにもならないじゃないですか。そういった機会を設けてもらえる可能性はあるのかということ。

【事務局】 いずれにしても、今年度はそういった形でスケジュールを決めているんですけども、この懇談会は来年度も引続き開催いたしまして、また来年度の取組内容についてご意見をいただきながらビジョンの変更といった見直しもしていきますので、その辺もまたよろしくお願ひしたいと思ひます。

今後のスケジュールについては、くどういようですけども、一応次回の懇談会で、なるべく皆さんのご意見を取りまとめるような形で進めさせていただければなというふうにご考へておりますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

【委員】 協力はするけど、無理でないの。それはちょっと無理だわ。

【事務局】 また次回、状況をみながら判断させていただきたいと思ひます。

【座長】 今日は本当にありがとうございました。

次回は5番目のところからやりますけども、全体を通して意見の整理をしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。今日はお疲れ様でございました。